

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室

第146回 刈込・刈



先生：芝生にしっかりと肥料をあげて、ひたすら刈り込む・・・これが芝生管理の王道なのはわかったわね・・・刈り込む限りは必ず肥料をあげなければ芝生にとってはとてもストレスになるわ・・・

生徒：刈込自体が大ストレスなんですわね・・・

先生：そういうこと・・・それをしっかり理解しないとね・・・例えば春の寒地型の芝がよく伸びるときは刈込もたくさんしないといけない・・・暖地型なら夏にはたくさん刈込をしないといけない・・・

生徒：だからその成長シーズンは肥料もたくさんあげないといけないんですわね！

先生：そういうこと！！・・・葉を刈り取られるということは、光合成をする面積を失うということなのよ・・・

生徒：芝生にとっては死活問題ですわね・・・

先生：例えば、刈り取った刈りかすの重量が1kgだとすると、その内の約90%が水だとして『乾物重量』は約100g・・・その乾物中の90%以上は水素(H)、炭素(C)、酸素(O)・・・そして大事な肥料として与えた窒素(N)は5%ほど含まれている・・・つまり1kgの刈りかすが出るということは5g分の窒素が芝から失われると言う計算になる・・・芝生はそれを取り戻そうとして土壌から窒素を吸収し光合成をして有機物を作り葉を修復していく・・・そして失った分の葉緑素をまた作りなおす・・・

生徒：刈込は芝生には大迷惑な出来事なんですわね・・・

先生：そして頑張っているうちにまた刈り込まれる・・・

生徒：厳しい現実・・・延々と繰り返されますわね・・・

先生：でも芝生も頑張るわよ・・・頻繁に刈り込まれれば大きくなれないので芝生は葉の数を増やして光合成をする面積を増やそうとするわ！

生徒：なるほど・・・低刈を継続すれば芝生の密度がどんどん上がってくるんですわね・・・

先生：そういうこと・・・低刈抵抗性がある芝生の種類は、低刈をして肥料を継続的にあげれば、芝生の密度をぐんぐん上げてその

環境に適応する・・・

生徒：なるほど・・・クーリングペントはグリーンで低刈されても枯れずに密度を上げて適応するんですわね！

先生：そういうことね・・・

例えば低刈抵抗性の低いトールフェスクや野芝なんかを無理に低く刈ると密度が上げられないので芝生が弱くなるわ・・・それでも肥料を十分に継続的にあげて最大限葉緑素量を上げればそれなりに耐えられる・・・どちらにしても「肥料を切る」なんてことをすれば芝生は葉緑素量が減り健全性が下がり簡単に枯れる・・・

生徒：やはり芝刈りと施肥は最も大事な事なんですわね・・・

先生：そうね・・・法面なんかで年に1回しか刈らないからと肥料をろくにあげないで管理すると、刈り込んだときに一気に軸刈りになり、もともと肥料を与えていないから葉緑素の量が

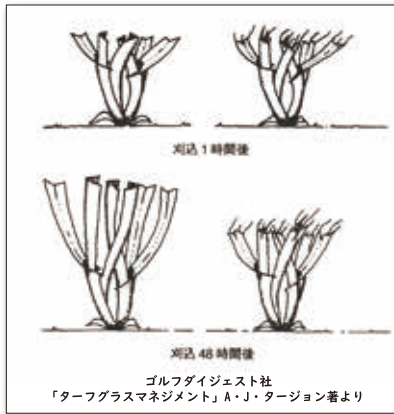
ギリギリだったのにその上大半の葉の面積を一気に失うから枯れるしか無いわね・・・

生徒：つまり刈るなら肥料はあげないといけない・・・

先生：夏場のペントに肥料をあげないのもだめよ・・・少しでも刈り取れるのならその分の施肥は絶対必要・・・真冬で刈込をしないと全く刈り取れないのなら施肥は不要・・・でも温暖化で冬も伸びるようになったら、刈り取られた分の施肥は絶対必要ね・・・春にたくさん伸びて刈取量が増えたら伸びないように肥料を少なくするのはなくむしろ増やさないといけないわ・・・

生徒：なるほど・・・

先生：それに芝刈機の刃をきちんと研磨してきれいに刈らないと芝生のストレスが上がるわ・・・図の右側はきれいに刈られていない状態、左はきれいに刈られている状態・・・二日後の生育は大きく変わるわ・・・その理由は切り口の面積がきれいに刈られないとザクザクで大きくなるから修復する面積が広がるからなのよ・・・ザクザクの切り口は面積が広がるから直すのも大変で時間がかかる・・・修復にエネルギーが取られて成長が遅くなる・・・その間に病原菌などが細胞の切り口から侵入しやすくなる・・・ダメージは甚大よ・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》